【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立鍋島小学校

1　前年度 評価結果の概要	・主体的に学ぶ児童の育成のために、国語科を中心に校内研究に取り組んだ。全員が授業を公開して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討してきたことで、児童一人一人が「めあて（問い）」を決め、主体的に学びを追求するようになった。 ・心の教育では、道徳の授業の充実、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等、様々な側面から継続して取り組んだ。いじめ事案や不登校対策については、些細な兆候も見逃さず組織的に対応を行った。児童にとって安心安全な学校を目指して、取組を継続していきたい。 ・業務改善・職員の働き方改革においては、月1回の部会で業務の進捗状況を確認し合ったり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。年度の後半に、時間外在校時間が総じて短くなってきたが、業務内容についてはこれからも改善点があれば見直していきたい。
2　学校教育目標	「笑顔いっぱい　楽しく学ぶ　鍋島っ子の育成」 ・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童　　・思いやりの心をもち、自分も相手も大切にできる児童 ・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童　　・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童
3　本年度の重点目標	①　校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。 ②　鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。 ③　児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○活用できる力の基盤となる基礎・基本の徹底	○「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答する児童を85%以上	・鍋島中校区の取組の一環として「レベルアップ週間」を設定し「鍋島スタイル」(学習)の徹底と家庭学習時間をより意識させる。できている基準を児童に提示し，自己評価につなげる。	A	・「鍋島スタイル」(学習)が「できている」と回答した児童は1学期同様97 %であり，児童の意識は高いといえる。一方でレベルアップ週間の取り組みには家庭によって差がみられ，学校と家庭が連携して取り組めるような声掛けや工夫の検討が必要である。	A	・どの学級も落ち着いて学習に取り組んでおり、児童の成長を感じた。また、学習用端末を使って学習を進めている様子が見られた。今後も、学習用端末の活用に期待したい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。 ○道徳科において、教科書に対応した別葉を学年ごとに作成する。	・人権・同和教育を教育課程に位置づけ、集会や人権教室等の実施を通して人権感覚の豊かな心の育成を図る。 ・人と人とのつながりを意識し、一人一人の存在を認め合う姿を育て、自己肯定感を高める。	A	・「自分や相手を大切にしている」と回答した児童は99%で目標を達成することができている。人権教室の感想を各学級代表児童1名を掲示させることで、他学年ではどのような考えを持っているのか知ることができ、学年を越えた人権意識に気付かせることができた。 ・別葉の配布を行い、学年ごとに学校行事やほかの価値項目との関連を踏まえて授業研究に努めた。	A	・子供が地域の方へ挨拶しても不快に思われる方もいる。人とのつながりの大切さを学ばせるためにも、子供の声が心地よい町づくりをしていきたい。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「心のカード」の記述内容をふまえ、「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。	・「心のカード」を毎月実施し、担任が内容を確認する。問題事案があれば、即座に対応し、その後教育相談、管理職が組織的にかかわり、継続的に見守る。また、不登校傾向の児童の背景や要因を職員で共有し、手立てとする。	A	・児童アンケートによると、「安心して学校に通っている。」「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている。」「自分や友達のことを大切にしている。」と回答した児童は、いずれも90%以上であった。また、毎月、児童と保護者に実施している心のアンケートでは、深刻な事案に発展する前に解決を図ることができたという記録が多く あった。今後もの心のカード等の取組を継続し、困ったときには身近な大人に相談できる体制づくりに努めていく。	A	・先生方は、言葉遣いや問題行動等について誠意をもって一人一人の児童に対応されている。このことが、落ち着いた生活に結び付いていると思う。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・毎月行う「心のカード」や、年に2回ある教育相談月間での児童への対応では、気になる点だけではなく、児童の頑張りや学期目標に対する肯定的な姿を認めるように話をする。 ・児童が書いた学期目標を評価したり、キャリアパスポートに書いた内容を交流したりして、児童が認められたり、夢や目標を意識してけるようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90%いた。また、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒は84%とやや目標数値より低かったものの、自分なりに夢や目標をもって生活することができている児童は多いといえる。	A	・どの学年においても、学校教育活動の中で地域との連携を大切にした取組をされていることを知った。鍋島小校区は、地域と連携した取組を多く取り入れているほうであると感じる。学校と地域との結び付きを強くするためにも、地域の一員として協力していきたいと思っている。	
	○「鍋島スタイル（生活）」を中心に考え、極まりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成	○「鍋島スタイル（生活）」が個人で「90%できている」と回答できるようにする。また、全校で達成できている児童を80%以上にする。	・「鍋島スタイル」を掲示・放送・学級指導を通して徹底する。問題行動等の原因、背景をさぐり未然防止に努め開発的生徒指導を展開する。また、生徒指導協議会で情報交換し、指導事項を共通理解する。また、組織で早期解決、再発防止に努める。	A	・「鍋島スタイル（生活）」において「できている」「大体できている」と回答した児童が、95%で目標達成を継続することができた。今後も「鍋島スタイル（生活）」の定着を図るために、委員会であいさつ運動に取り組んだり、月の生活のめあてを継続したりした。また、学年に応じた内容を重点的に取り組んだ成果が出ており、進んであいさつができる児童やあいさつ運動に参加する児童が増えてきた。問題行動等については、職員連絡会を通じて事案を共通理解し、全校放送を行ったところ早期解決や再発防止に努めることができた。	A	・参観では、どの学年の子供も集中して学習に取り組んでいる様子が分かった。低学年の児童もきちんと先生を見て話を聞いており、成長を感じることができた。	
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●年間を通じて給食指導・食育を行い、食べ物を大切にする気持ちと望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。	・栄養教諭と担任が連携し食育の充実を図る。年に1回以上、授業において食に関する授業を発達段階や、児童の実態に応じて実施する。	A	・「給食時間は決まりやマナーを守って食べている」児童は前回より微増L98%であった。 学級担任による給食の時間の継続的な指導の実施や電子黒板を使用したその日の献立に合わせた内容を示した給食カレンダーによる食育指導をすることができた。 ・担任教諭と栄養教諭による食に関する学級活動を実施することができた。 保護者アンケートの「学校は食育の指導を行っている」の結果は3以上の評価が95%であった。家庭への食に関する指導の啓発を続けていきたい。	B	・学校は、食育指導を通して健康な体作りに取り組んでいる。食事のマナーの一つである箸の持ち方についても、工夫した実践がなされている。	
	●運動習慣の改善や定着化	●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはんができている」と回答する児童を90%以上、「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。	・養護教諭、体育部が主となって望ましい生活・運動習慣を身に付けさせる指導を系統的に行う。レベルアップ週間に、この取組を強化することで指導の充実を図る。 ・状況に応じた感染症対策を行うとともに、外遊びの奨励、大縄大会の実施、体育(保健)の授業の工夫改善を行う。運動の面白さ、楽しさ、喜びを味わわせ、運動に親しむ児童を育成する。	A	・「早寝早起き朝ごはんができている」と回答した児童は90%であり、前回より微減している。冬季になると、早起きのリズムが崩れやすくなるので、指導を継続しつつ、家庭への周知と連携を呼び掛けていく。 ・「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答した児童は80%であり、成果指標を達成した。前回よりも6%増加し、外で運動に親しむ機会をつくったことが結果として表れている。この成果を継続していけるように、児童に運動の楽しさを伝えていくと共に、保護者にも運動を楽しむ機会をもつことの良さを促進していきたい。	B	・基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いと聞き、感心した。各家庭の事情もあると思うが、今後も学校ホームページや学校だより等を通じて、保護者に呼び掛けていってほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日の定時退勤日、第三金曜日のスーパー定時退勤日の取組を全職員で意識し、達成を目指す。	B	・定時退勤日を意識し時間外在校等時間月45時間以内であった職員は全体で75.6%であった。月45時間以上勤務平均が、昨年度より減少傾向であり業務改善が進んできている。研究授業や運動会等の行事等後、通常業務に尊念できる時間確保ができるようになったためと考える。	B	・以前、先生方の業務改善をお願いしていたが、ペーパーレス会議や校時表の見直し等改善が見られた。先生方の負担増とならないよう、取組活動の精査は継続していく必要がある。	
	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという職員を70%にする。	・長期、短期毎に業務の内容を見通した計画を立て、各学年、館内で可視化。教育効果を優先に考え行事の削減、縮小を行う。	A	・業務の効率化が進んだと感じる職員は82.2%になった。各部会で部長が中心となり、見通しをもって計画的に準備を進めてきたことが成果を上げている。学校行事の教育効果を重視し目的を明確にした結果、準備等に割く時間を見直すことができた。	A	・アフターコロナで、学校全体で協力して教育活動を進められていることが伝わってくる。先生方の働き方について、今後も配慮をお願いしたい。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○志を高める教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする主体性を育む活動の充実	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合を85%以上にする。	・教育活動に「キャリア教育」「SDGs」の視点を入れ込むことで、将来に向けた目標や計画を立てさせる。「社会・世界・持続可能」のSDGsの観点を意図的に取り入れる。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・学校行事では、鍋っ子オリンピックを中心に、学年に応じた目標に向けて活動した。児童の振り返りでは、「自分の将来の夢や希望に向かって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は84%であった。3学期は学年に応じた目標を立て、児童の達成に向けた取り組みを価値付けることで、成長の実感を持たせて次学年につなげたい。 ・職員アンケートでは、「SDGsを意識させながら自らの目標や夢について考えさせるようにしている」が2.8（4段階評価の平均）から3.0に上がっている。今後もSDGsについての職員の意識を高めていきたい。	B	・子供達の夢や希望に結び付けるためにも、地域コミュニティーを強化していきたい。町づくり協議会、長生会、自治会等が連携し、子供の声が聞こえる地区内の行事を見直していきたいと考えている。学校からも教育活動において、相談していただきたい。	
○危機管理体制の強化と対応能力の育成	○家庭と連携した防災教育・安全教育の充実	○「災害が起きた時に自分の身を守ることができる」と回答する児童を95%以上にする。 ○自転車のヘルメット着用率を90%以上にする。	・年度はじめに避難の仕方や避難経路を伝え、職員の指導力向上を図るとともに、児童にも朝タイム等で指導をする時間を確保し、不測の事態に対応を想像させる。各訓練は、実際に動きの確認をし、対応力をつけさせる。 ・道路交通法の一部改正（令和5年4月1日施行）により、全ての自転車利用者に対し，自転車の乗車用ヘルメット着用努力義務が課せられることや，正しい乗り方についての指導内容等を各種便りで家庭に広める。	A	・不審者対応避難訓練や地震火災避難訓練を通して、「災害時に自分の身を守ることができる。」と回答した児童は、98%であった。今後も繰り返し、防災意識を高めるための指導を継続していく。 ・自転車の乗り方では、児童のヘルメットの着用率が95%であったことから、安全に対する意識が向上してきているといえる。	A	・地域の交通指導員さんが、どの子にも声をかけられており、事故が起きないように指導されている。	
○特別支援教育の充実	○教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立	○「対象児童に適切な対応をとっている」と回答する教職員を90%以上にする。	・支援が必要な児童に対して組織で情報を共有し体制を整えるとともに、短期・長期目標を決定する。 ・外部機関との連携を密にし、実効性のある職員研修を実施する。	A	・「適切な対応をとるように努めている」とする割合が学校全体としても、職員個人としても100%である。次年度は夏休みの研修を分散させ、必要な時期に適切に行うことで、更なる職員のスキルアップに繋げていくことが必要と考える。	A	・特別支援学級、通常学級どちらも個に応じたきめ細やかな指導がされている。新1年生も含め、全ての子供達の成長のために今後も幼保こ小連携会議や学校評議員会等で情報交換していきたい。	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・主体的に学び、豊かに表現できる児童の育成のために、国語科を中心に児童一人一人の「めあて（問い）」を大切にした校内研究に取り組んだ。職員全員が授業を公開して、単元・授業づくりや言語活動の在り方を検討し実践してきたことで、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的に学ぶ姿の高まりに結び付いた。 ・心の教育では、道徳の授業の充実、人権・同和教育、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等、多岐にわたって実践してきた。このことが、児童が安心して過ごせる学校・学級づくりに寄与している。いじめ事案や不登校対策については、担当者を中心に組織的に対応することができた。今後も、未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に心掛け、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。 ・業務改善・職員の働き方改革においては、各部会で業務の進捗状況を確認し見通しを持った業務遂行に心掛けたり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。今年度は、昨年度より時間外在校時間が短くなっており業務改善の成果が表れてきた。今後も、業務内容や行事等について見直しを図り、改善を進めていきたい。